

# ゆい 結通信

NO. 50  
2021年10月30日

ともに歩む  結みのお

〒562-0003 箕面市西小路3-12-6

Tel&Fax 072-722-9914

E-mail : yui-minoh@hcn.zaq.ne.jp

http://www.yui-minoh.com

https://www.facebook.com/yuiminoh

郵便振替番号：00920-8-300135(ともに歩む『結みのお』)

## つながりを深めよう！

～結通信50号に思う～

牧野 直子

### おうち時間の中で振り返る

長いコロナ禍の生活が続き、家で過ごす時間が増えました。この時期に普段できない書類の片づけをし始めました。すると昔の日記などが出てきました。これまでの人生を振り返りつつ、これから残された時間で何をすべきか考えました。

### 認知症の両親に付き添って

私は戦後の団塊の世代の生まれです。両親は明治生まれと大正生まれ。戦時中にパラオ島から命ながら船で帰国したときの話は何度も聞いています。そして、私は大阪で生まれ、京都の片田舎で幼少時代を過ごしました。日本は奇跡的な戦後復興を果たし、高度成長期に私は大きくなりました。私は両親のもとで何不自由なく暮らしていました。

しかし、私の結婚後、父と母は相次いで認知症になります。当時は「呆け老人をかかえる家族の会」というのがあり、そこに私は顔を出していました。まだ認知症という言葉も介護保険制度もない時代です。私は両親が心配で、ときには一日おきに幼い子どもたちを車に乗せて京都の実家と大阪を往復していた時期もありました。父は施設に入り、母は箕面の我が家に引き取りました。母は歌が大好きだったので、母のリハビリのためにコーラスグループ「さくら会」を立ち上げました。35年前のことです。



「さくら会の歌」でオープニング 指揮：牧野直子／伴奏：神崎典子

### 次は自分の番、あなたならどうする？

今は父も母もこの世にいませんが、自分が当時の母の年になってみて「こういうことだったのか」と思うことしばしばです。

私は両親とも認知症だったので、自分も間違いなく認知症になると思っていましたし、今まさにその兆候を感じています。認知症の治療薬はなく、進行を遅らせることしかできません。

今年高齢者(65才以上)の全人口に占める割合は約30パーセントだとのこと。つまり約3人に1人が高齢者です。そして団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、認知症患者は700万人に達すると言われています。2000年にできた介護保険制度もこのままでは破綻するでしょう。

最近、認知症の方が当事者として本を書いたり発言される場面が増えてきました。さらに認知症の方々と共に、農園やカフェなどを運営し、住民が主体となってまちおこしをする自治体も出てきました。住民の力が地域を元気にするあらたな取り組みは注目に値します。

### コロナ時代に「結みのお」が果たす役割は？

コロナ禍の中で、高齢者だけでなく、若い子育て世代の親や育ちざかりの子どもたちも人との接点が減って、心を病む人が増えているそうです。

「誰もがいきいき暮らせるまちに」の歌の中にあるように「家庭を越えて、育ちあい、分かち合い、助け合う」ことが必要になってくるはず。

人は一人では生きていけません。「人」という字は支え合っています。どんな状態になっても自分が必要とされる存在であることが生きる支えになるのではないのでしょうか？ 今回の結通信50号にも結仲間の方々の思いあふれる文章が掲載されています。ぜひお目通しください。そして会員同士のつながりを深めて行きましょう。

